

AUTOBACS  
**GPR**  
KARTING SERIES  
2023

## 2023年AUTOBACS GPR KARTING SERIES Rd.9/Rd.10

開催場所：オートパラダイス御殿場

開催日：11月11～12日

●天候：晴れ ●路面状況：ドライ

●参加台数：OK 20台 / Junior 19台 / Cadets 16台 / Shifter 12台

2023年オートバックスGPR KARTINGシリーズの最終イベントとなる第9戦／10戦が、11月11～12日の2日間、静岡県・オートパラダイス御殿場で開催された。

前回から約2か月のインターバルをあけての開催となり、季節もすっかり晩秋。今季から始まったGPRシリーズの初代チャンピオンを決する戦いが、富士の裾野で繰り広げられた。

レースウィークは、土曜日は時折雨が降り、終日にわたってコースは湿っている ハーフウェット状態。時折スリックタイヤで走れる時間もあったものの、概ねレインタイヤでの走行となった。開けて日曜日は、雲は多いものの時折日差しも見られ、朝からスリックタイヤでの出走となった。

OKクラスではランキングトップの鈴木斗輝哉と同2番手の吉田馨がチャンピオン争いに残っているものの、鈴木がわずかでも加算すれば自力でチャンピオンが獲得できるという、圧倒的に有利な状況でこの大会を迎えた。

### [OK Rd.9] 鈴木斗輝哉が独走で優勝！



今回は参加20台のためタイムトライアルはグループ分けせず、1グループで行われた。トップタイムをマークしたのは、最後に逆転した鈴木。チャンピオンへ向け、まずは順当な滑り出しとなる。一方、逆転タイトルを狙う吉田馨は4輪脱輪のためベストタイムが抹消され、18番手と下位に沈むこととなる。

第9戦決勝。好スタートを見せたのは鈴木。その後方では2番手スタートの菊池貴博と3番手スタートの熊谷憲太が接触しコースアウト。早くも戦列を離れてしまう。

トップ鈴木、2番手には三村壮太郎があがるが、序盤から鈴木のパースがよりリードを広げていく。三村にかわり中井陽斗が2番手に上がるものの、それでも鈴木のパースには追いつけず、鈴木が独走。終盤には中井の後方に落合運音が接近し、2番手争いが始まる。

レースは、独走で逃げ切った鈴木が優勝しタイトルを獲得。2位に落合、3位中井となった。

#### ■鈴木斗輝哉/優勝ドライバーコメント

最初から最後まで速さを見せることができました。午後も自信を持って臨めます。チャンピオンは決まったようですが、あまりバトルもなかったので実感はありません。でも、良かったです。

### [Cadets Rd.9] チャンピオンの森谷永翔がダメ押しの優勝！



カデットクラスの参加は16台。すでに森谷永翔がチャンピオンを決めている。今回は、その森谷に一矢報いることができるかが注目される。タイムトライアルでは中野貴介がトップタイムをマーク。2番手に飯田一仁、3番手に森谷、4番手横山輝翔と続く。

第9戦の決勝では、中野が好スタート。それを逆転したのが森谷。さらに横山が森谷もかわりトップに浮上する。横山を先頭に森谷、中野と続くトップグループ。中盤以降は幾度もトップが入れ替わる激戦となり、勝負の行方は予断を許さない。残り2周を切った15周目、トップに出たのは森谷。その後方で中野と横山が2番手争いを始めると、森谷がややリードを広げること成功する。最終ラップ、森谷を横山が追うが、一度築いたリードを手放すことはなく、森谷が優勝。2位に横山、3位中野となった。

#### ■森谷永翔/優勝ドライバーコメント

今大会でカデットを卒業するので、その卒業レースでバトルができ楽しかったです。午後のレースでも勝ちたいです。

title sponsor



series sponsors



series partners



## [Junior Rd.9] 酒井龍太郎が接戦を制し優勝！



■酒井龍太郎/優勝ドライバーコメント

スタートを決めることができ、得意なレース展開に持ち込めました。スタートで抜け出せたので速さにも自信があり、引き離すことができました。午後6勝目を狙って勝ちたいです。

この最終ラウンドを迎えた段階で、タイトル争いに残ってるのはランキングトップの関口瞬、酒井龍太郎、澤田龍征の3人。この中で最も優位なのが酒井。酒井は、夏のもてぎ大会を負傷のため欠場しているため、今大会の獲得ポイントがすべて有効ポイントとして加算されるからだ。

タイムトライアルでは、その酒井がトップタイムをマーク。2番手には坂野太紘、3番手に澤田、4番手に関口が続く。

第9戦の決勝。好スタートを見せた酒井がトップでオープニングラップに戻ってくる。2番手には澤田が上がるが、2周目には関口が2番手を奪う。そのバトルの間にもリードを広げていく酒井。2番手を引き離して周回を重ねていく。2番手関口も単独での周回となり、3番手争いが澤田と坂野との間で勃発。14周目に坂野が澤田をかわし3番手に浮上する。

レースはそのまま酒井がトップでチェッカー。今季5勝目を飾り、タイトルに王手をかけた。2位に関口、3位に坂野が入った。

## [Shifter Rd.9] スポット参戦ドライバー、Davide Vidalesが優勝！



■David Vidales/優勝ドライバーコメント

いいレースでした。富田選手がとても速く、なかなか追いつけませんでした。幾度かミスをしてくれたおかげでオーバーテイクのチャンスができました。優勝できてうれしいです。

シフトクラスでのタイトル争いは、ランキングトップの安堂祐を中心に、東拓志、丸山陽平の三つ巴の戦い。自力でのタイトル獲得が可能なのは、安堂のみとなる。

今大会には、イタリア本国のトニーカートワークスチームにも所属した実績を持つデビッド・ビターレスがスポット参戦し、世界の実力が注目された。

タイムトライアルでは、富田星羅がトップタイムをマーク。2番手に井出七星翔、3番手にデビッド・ビターレスと続き、安堂は6番手につける。

決勝のスタートではボールポジションからスタートした富田星羅が好ダッシュでホールショットを奪うと、そのままレースをリードしていく。2番手にビターレス、3番手に井出と続く。

富田は、一時期2番手以下を引き離れたかに見えたが、終盤に入るとビターレスが接近。12周目に富田をかわしトップに浮上すると、その後は突き放し独走。ビターレスが実力を見せつけ優勝を飾った。

また安堂が5位に入り、今季のチャンピオンを決定した。

## [OK Rd.10] 熊谷憲太が繰り上がりで優勝！



■熊谷憲太/優勝ドライバーコメント

最終的には優勝となったことは嬉しいですが、鈴木選手には離されフィニッシュは2位なので、序盤攻め過ぎて後半たれてしまったりと課題も見えたので、そこは今後対応していきたいです。

第10戦のPPIは加納康雅が獲得。決勝でもいいスタートを切るが、オープニングラップにコースアウトを喫し、大きく遅れ最後尾まで後退する。トップは初参戦の中野駿太。2番手に吉田が続く。5周目、吉田が中野をかわし2番手に浮上。中野の後方には鈴木と落合が接近していく。8周目、その落合と鈴木が接触し、落合がスピン。再スタートするもの大きく遅れることとなる。13周目には鈴木が中野をかわすと、トップの吉田に接近していく。18周目の3コーナーで逆転。さらに熊谷も2番手に上がり中野が3番手となる。トップの鈴木はそのままチェッカーを受けるが、落合との接触でペナルティとなり降格。熊谷が繰り上がりながら優勝を飾った。

title sponsor



series sponsors



series partners



オリエンタルバイロ



THE TIME KEEPER



THE TIME KEEPER



MARK FLAME



THE TIME KEEPER



THE TIME KEEPER



## [Cadets Rd.10] 横山輝翔、最終戦で優勝を飾る！



■横山輝翔/優勝ドライバーコメント

サイコーです。スタート前から自信がありました。気持ちが大事ですね。強い気持ちで決勝に臨みました。カデット最後のレースで勝ててうれしいです。

第10戦のPPは横山。決勝でも横山が好スタートからレースをリードしていく。2番手に中野、3番手には森谷、さらに飯田と続いていく。トップの横山は、じりじりとリードを広げていく。後方では森谷が2番手、飯田が3番手に上がり、僅差で中野が続いていく。終盤に入ると、2番手グループのポジション争いも激しくなるが、トップの横山が巻き込まれることはなくラップを重ねていく。そのまま逃げ切った横山が最終戦で意地の優勝。2位に飯田、3位中野となった。

## [Junior Rd.10] 酒井龍太郎、連勝でタイトル獲得！



■酒井龍太郎/優勝ドライバーコメント

セットを変更したら第9戦のような走りができず、その部分は納得がいかないのですが、勝てたので良かったです。今季はケガでの欠場もありましたが、復帰してからは6連勝できチャンピオンも獲得できました。これは自分の実力だけではなく、チームのサポートのおかげだとも思っているので、とても感謝しています。

第9戦のベストタイム順で組まれた第10戦スターティンググリッド。ここでもPPは酒井龍太郎、2番手に坂野太紘、3番手澤田龍征、4番手に関口瞬と第9戦と全く同じ上位陣となる。

第9戦の結果により、酒井がタイトルに王手をかけ、関口が逆転するには2位以上が必須条件となる。

スタートを決めたのは酒井。2番手に坂野が続き、関口はオープニングラップで3番手に浮上する。4周目には関口が2番手に上がるが、坂野もすぐに逆転。この間に酒井は独走へと逃げ、大きくリードを広げていく。終盤に入っても酒井のペースは変わらず、坂野2番手、関口3番手でレースは進んでいく。

結局、逃げ切った酒井が今季6勝目を飾るとともにチャンピオンも決定。2位に坂野、3位関口となった。

## [Shifter Rd.10] Davide Vidalesが2連勝を飾る！



■David Vidales/優勝ドライバーコメント

いいスタートを切ることができ、そのままリードを広げることができ良かったです。2連勝できてうれしいです。

第10戦はポールポジションからスタートしたビターレスが絶妙なスタートを決めホールショット。2番手に富田、3番手に堂安が続く。ビターレスは、じりじりと富田を引き離していくと、中盤過ぎには独走へと持ちこみ、一人旅。終盤に入ってもペースが落ちることはなく、富田も差を縮めることができない。最後までペースが衰えなかったビターレスが、メーカーワークスドライバーを務めた力をいかに発揮し2連勝を飾った。2位に富田、3位に岩崎有矢斗が入った。

title sponsor



series sponsors



series partners

